

○事業所名	リハビリンスキッズおゆみ野		
○保護者評価実施期間	2025年1月1日		～ 2025年12月31 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	2025年1月1日		～ 2025年12月31 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画の質・専門性ある支援への評価が極めて高い	アセスメントに基づいた個別支援計画を丁寧に作成し、保護者の意向を計画に反映させている。計画説明の際は読み上げながら質問にも答える丁寧な説明を実施している	計画内容をさらに細かく保護者と共有できるよう、支援プログラムの具体的な内容を視覚的に分かりやすく伝える工夫を進める。活動プログラムの固定化防止
2	日常的な情報共有・相談対応・保護者とのコミュニケーションが評価されている	送迎時・連絡帳・SNS等を通じて毎回の様子を伝え、定期面談で保護者の悩みに丁寧に寄り添っている。相談があれば迅速に対応できる体制を整え、SNS・ホームページ等での情報発信も積極的に行っている	毎日の活動報告の内容をさらに充実させ、こどもの成長・変化が伝わる質の高い発信を目指す。情報共有の方法について、全保護者に周知される仕組みを整備する
3	こどもの安心感・通所意欲・支援満足度が高く評価されている	こどもの特性・ベースに合わせた個別対応を大切に、職員が専門的視点でアドバイスを提供している。安心できる環境づくりと職員との信頼関係の構築に継続して注力している	一部に「安心できる日とできない日がある」というコメントがあることを踏まえ、こどもが毎回安定して過ごせる環境の一貫性・継続性をさらに高める。職員の入れ替わりへの対応(コメント「入れ替わりが激しすぎて信頼関係が築きにくい」として、引き継ぎ体制を強化する

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の実施・周知が大きく不足している	事業所開設からの日数やスタッフ体制の問題で、家族支援プログラムの実施体制が整っていない。「どちらともいえない」が16名と最多であり、プログラム自体の存在が保護者に伝わっていない	年間スケジュールにペアレント・トレーニング等の家族支援プログラムを明確に位置づけ、入所時・定期面談時に案内を行う。オンライン形式など参加しやすい方法を検討し、実施率を高める
2	保護者との意思疎通・情報伝達の認知度に大きなばらつきがある	連絡帳・SNS・活動報告等の発信を行っているが、保護者によって情報を受け取れているかにばらつきがある。新規利用者への案内・説明が不十分な可能性があり、情報共有ツールの周知徹底が課題	入所時のオリエンテーションで連絡手段・情報共有ツールを確実に説明し、定期的に確認する機会を設ける。SNS・アプリ等の使い方説明や資料を整備し、全保護者が同様に情報を受け取れる環境を整える
3	地域交流の機会不足および非常時対応(避難訓練等)の保護者への周知が不十分	地域の保育所・認定こども園等との交流機会が限られており、他のこどもと活動する場の整備が不十分。避難訓練の実施は行われているが、その内容・日程が保護者に十分伝わっておらず、認知度が極めて低い	地域の施設との交流計画を年間計画に位置づけ、交流活動の実施・案内を保護者に発信する。避難訓練の実施日・内容を事前に保護者に通知し、訓練後の報告を行う仕組みを整備する。緊急時対応マニュアルは入所時説明に確実に組み込む

○事業所名	リハリンクスキッズおゆみ野			
○保護者評価実施期間	2025年1月1日		～	2025年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○従業者評価実施期間	2025年1月1日		～	2025年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画の質・専門性ある支援・支援計画に沿った支援への評価が極めて高い	アセスメントに基づいた個別支援計画を丁寧に作成し、保護者の意向を確実に反映している。計画説明の際は内容を丁寧に読み上げながら保護者の質問にも対応している。チームで連携した支援を実施している	計画の内容をさらにわかりやすく伝えるため、図や写真を活用した説明資料を整備する。活動プログラムの固定化防止にも継続的に取り組み、多様な活動を提供する
2	保護者への定期面談・日常的な情報共有・安全確保への取組が高く評価されている	送迎時・連絡帳等を通じて毎回の様子を伝え、定期面談では保護者の悩みや質問に丁寧に対応している。安全計画の策定・周知を行い、安心して支援を受けられる環境を維持している	情報共有ツール(SNS・HP等)のさらなる活用を進め、保護者全員が事業所の取組を把握できる環境を整える。定期面談の内容を記録・活用して継続的支援に繋げる
3	こどもの通所意欲が保たれており、保護者からも通所継続への肯定的な声がある	こどもの特性・興味に合わせた活動プログラムを工夫し(Q10:はい4名)、楽しめる環境づくりを継続している。保護者相談への対応	一部のこどもについて「安心感が不明」というコメントがあることを踏まえ、毎回の通所時に担当職員が必ず挨拶・声かけを行う等、こどもが安心して過ごせる一貫性のある関わりを強化する

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の入れ替わりが多く、保護者からの共感的支援・信頼関係構築への評価が低い	事業所開設間もなく職員の異動・交代が多いため、こどもと職員の継続的な関係構築が難しい状況にある。職員間の引き継ぎや情報共有の仕組みが十分に機能しておらず、保護者に伝わっていない	職員の引き継ぎシートを整備し、担当が変わってもこどもの状況・支援方針が確実に引き継がれる体制を構築する。職員の定着率向上に向けた職場環境改善に取り組み、職員の顔ぶれ紹介を保護者に定期的に行う
2	職員配置数・専門性の透明性が低く、保護者への周知が不十分	各職員の職種・役割・専門性について保護者への説明が不十分で、誰がどのような役割を担っているかが伝わっていない。入所時説明で職員体制の説明はしているが、具体的な役割分担の周知が不足している	入所時オリエンテーションで職員体制・各職種の役割を分かりやすく説明する資料を作成する。各職員のプロフィール・専門性を掲示または配布資料にまとめ、保護者が職員を把握できる環境を整える
3	放課後児童クラブ等との地域交流機会の不足、および家族支援プログラムの周知・実施が不十分	事業所の支援時間帯の制約から、地域の放課後児童クラブ等との交流機会を組み込むことが難しい。家族支援プログラムについては実施しているものの、参加できた保護者とできなかった保護者で評価が大きく異なる	地域の小学校・放課後児童クラブとの連携を段階的に進め、年間計画に交流活動を位置づける。家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の日程・内容を早めに告知し、参加しやすい時間帯・形式(オンライン含む)を検討する

○事業所名	リハビリンスキッズおゆみ野		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 1日		～ 2025年 12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	2025年 1月 1日		～ 2025年 12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○訪問先施設評価実施期間	2025年 1月 1日		～ 2025年 12月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問先施設から訪問支援員の専門性・助言・対応力が高く評価されている	訪問先施設の理念・支援手法を尊重しながら、訪問支援員が専門的知識に基づいた助言を行っている	訪問先施設との連携・情報共有をさらに強化し、支援効果の見える化(記録・事例報告の充実)を進める。訪問先施設ごとの課題に応じた具体的な助言スキルの向上のため、事例検討会を定期的実施する
2	個別支援計画の質・チーム連携・支援実施体制が高く評価されている	訪問前後の職員打ち合わせを毎回実施し、役割分担と支援内容の確認を徹底している。保護者との日常的な連絡・相談対応、保護者への定期面談・支援計画説明も継続している	支援計画の内容をさらにわかりやすく保護者へ訪問先に伝えるための資料整備を進める。フォーマルなアセスメントツールの活用を全職員に統一し、支援の客観的根拠を高める
3	保護者との信頼関係・相談対応・情報共有・安全管理が高く評価されている	保護者の相談を随時受け付ける体制を整え、迅速・丁寧に対応している。個人情報の適切な管理、SNS・HP等を通じた情報発信を継続している。安全計画の策定・安全管理も徹底している	保護者への情報発信(SNS・HP等)の頻度と内容の充実を図る。相談対応記録を蓄積し、次回の支援計画の改善に活用する仕組みを構築する

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	外部評価が未実施で、第三者視点による客観的な業務改善が行えていない	事業所開設間もなく、外部評価の実施に向けた先進事例の調査や各機関との連絡が取れておらず、実施体制が整っていない。年度内実施の計画が立てられていなかった	第三者評価機関への問い合わせを行い、外部評価の実施計画を年度内に策定する。まず内部でのピアレビュー(職員相互評価)を実施し、外部評価導入に向けた準備を進める
2	地域の関係機関との連携体制・就学移行時の情報共有体制が整っていない	保育所等訪問支援事業所として開設間もなく、地域の医療・保健・教育機関との連携ネットワークが構築されていない。就学移行事例がまだ少なく、小学校・特別支援学校との情報共有の仕組みが未整備	地域の関係機関(相談支援事業所・医療機関等)との情報交換の機会を意図的に設け、連携体制を段階的に構築する。就学移行時の情報提供の手順・様式を整備し、移行事例が発生した際に迅速に対応できる体制を作る
3	職員研修機会の確保・家族支援プログラムの実施が不十分	事業所規模が小さく、日程・費用の確保が難しいため全職員が均等に研修に参加できていない。家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の実施体制が整っておらず、保護者への案内が不十分	年度初めに研修参加計画を全職員分策定し、法人内外の研修を計画的に実施する。専門家(PT・OT・ST等)からの助言を定期的に受ける仕組みを整備する。家族支援プログラムを年間計画に位置づけ、保護者への早期案内を行う